

茅野市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和6年8月8日(木) 開 会 午後 4時00分
閉 会 午後 5時20分
2. 会 場 八ヶ岳総合博物館
3. 出席者 市長 今井 敦 教育長 山田 利幸
職務代理者 矢島 喜久雄 教育委員 若御子 雅英
教育委員 竹村 節子 教育委員 伊藤 美奈
出席職員 こども部長 五味 正 生涯学習部長 上田 佳秋
企画部長 小池 俊正 財政課長 森井 潤
こども課長 北澤 賢一 幼児教育課長 笹岡 俊江
学校教育課長 渡辺 雄一 生涯学習課長 矢嶋 浩行
文化財課長 小池 岳史 スポーツ健康課長 河西 茂廣
企画係長 伊藤 俊成 教育総務係長 春日 雅彦
教育総務係主事 小池 智也
4. 傍聴者 0名

茅野市総合教育会議次第

令和6年8月8日(木)
八ヶ岳総合博物館

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 社会教育施設の今後のあり方について

(2) その他

5 閉 会

○学校教育課長

只今より茅野市総合教育会議を開催します。

本会議は、茅野市総合教育会議運営要綱6条に基づきまして、公開としたいと思います。初めに、今井市長ご挨拶をお願いします。

○市長

本日は暑い中、尖石縄文考古館から神長官守矢史料館そして総合博物館の視察お疲れ様でした。

今行っている行財政改革では、急激に変化していく社会への対応も併せての議論・検討が続いている状況です。本日の総合教育会議では、行財政改革の議論と内容と少しかぶってきてしまう部分があるかもしれませんが、是非文化教育面からも議論をしていただきたいと思います。

○学校教育課長

ありがとうございました。

以後の議事については、今井市長に進めていただきます。

○市長

議事に入ります。

最初に資料に基づいて、教育長から社会教育施設について概要説明をいただきます。

○教育長

資料1をご覧ください。

今までの3つの博物館の関連・あり方を、この図にまとめると同時に、これからの進むべき方向も示してあります。

まずは、3つの館が独立してあるのではなく、3館の茅野市の自然・歴史・文化が3つ揃って1つである、という考え方が一番の根本にあります。

八ヶ岳総合博物館が核となり、茅野市だけではなく諏訪地域の学術研究中心センターの役割のもと、特に尖石考古館にどのように繋がっていくか、また、先ほどご覧になった守矢史料館にどう繋がっていくのか、これがこれからの大きな課題になっていくと思います。

さらに、それぞれの博物館の展示のあり方、資料公開のあり方までを含めて、これからの課題になってくると思います。

文化財課長に3館の特徴についてそれぞれ説明していただきます。

○文化財課長

今、教育長から3館の関連図について、ご説明いただきました。

資料2をご覧ください。3館の基本方針と業務の状況、課題とそれに対する取り組みについて記載しています。

資料3は、3館の年度別入館者数、資料4は、平成27年から考古館内を案内していただいている市民ガイドについて。平成22年から市民の方々を中心に挑戦していただいている縄文検定について。平成27年から縄文市民科を出前授業等で支援した実績等をそれぞれまとめています。

資料5は、史料館で行っているイベント等の告知です。

資料6は、以前定例教育委員会内で両館長が説明した博物館のリニューアル図面と博物館で実施している子どもを対象としたイベントの案内チラシです。

その他の資料として令和5年度博物館関係の事業報告と令和6年度事業計画になります。

本日は、資料1、2を使って簡単にお話させていただきます。

先ほど教育長からもお話があったように、3館それぞれの特徴を生かして様々な事業を行ってきました。今後はこれまでにない視点で事業を組み立てていく必要があると感じています。

3館の連携はもちろんですが、それぞれの施設では、市民の皆さんや、高校、大学、学術団体、民間事業者など様々な団体が活動されていますので、それらの団体との連携を深め、また、力をお借りして最終的には来館者数の増加に繋げていきたいと考えています。

それを踏まえて、図面についてご説明します。中心にある八ヶ岳総合博物館ですが、目指すところは、諏訪地域の学術研究中心センターです。

先ほど見学していただきましたが、天文に始まり、岩石、動植物、縄文から現代をつなぐ様々な道具類など、総合博物館という名の通り様々な展示していて、それらを保存、活用していくことを主な事業としています。

今、市民研究員が、植物、コケ、シダ等々、7グループ活動しています。博物館の学芸員が実施する様々なイベントに市民研究員の皆さんに参画していただければと考えています。また、高校だと、諏訪清陵高校の天文部、東海大諏訪高校の諏訪理科大学の生徒・学生には、科学工作や夏祭り、小正月祭などにご協力をいただいています。

また、国立国語研究所と協定を結んでいて、主に天文関係、言語地理学の連携をして、イベントを実施しました。

天文の関係では諏訪天文同好会、市民研究員の関係だと、長野県植物研究会や諏訪教育会の先生方にもご指導、ご支援をいただいて事業を進めています。

続いて、右側の尖石縄文考古館ですが、縄文の総本山と掲げ、縄文学習の学術センターを目指しています。そのために、2つの国宝土偶、特別史跡という「遺跡の国宝」に相当する価値がある尖石石器時代遺跡をしっかりと保存して、活用していくことが大切だと考えています。

その保存と活用に、縄文土器をつくったりしている尖石サークルや外来特定生物の駆除にご協力いただいているボランティア団体、市民ガイドの皆さんの力を借りて、縄文市民科の支援もしっかり行うことができます。

青少年自然の森とも連携をして縄文を体感していただくことに取り組んでいます。また、康耀堂美術館の先生方には中央公民館の縄文アートでお世話になりました。

さらに、今年度からちの観光まちづくり推進機構との連携も始まり、史跡公園を舞台にして、我々ができない活用をしていただいています。

日本遺産のお話も先ほどさせていただきましたが、長野県と山梨の18団体から成る日本遺産の構成市町村とも連携をして、しっかりと縄文を売って、観光につなげていきたいというような考えです。

左側の神長官守矢史料館は、西山の歴史的学術センターを目指しています。

一番重要なものは、県宝に指定された守矢文書155点、市の有形文化財になっている文書50点、他2,000点あまりの、文書を守矢早苗様から寄贈いただきましたので、それらをしっかりと守っていくことです。守矢家とは年に2回ほど懇談を行っています。

守矢史料館は、前宮と本宮のちょうど中央に位置していますので、前宮と本宮と何か連携ができればいいなと考えています。それらを繋ぐ道として、市の都市計画課が鎌倉道の遊歩道を整備しています。

前宮は、安国寺の皆さんが委託を受けて前宮水眼広場の運営をして、観光客にもしっかりとアピールをしていただいているようです。

この図のポイントは、八ヶ岳総合博物館を軸とすることです。「八ヶ岳が学びのフィールド 自然と歴史と暮らしを語る博物館」というキャッチコピーの通り、八ヶ岳をはじめとする大地があり、そこに様々な動植物が生息する。これがあつての縄文文化の繁栄であつて、そこから

現代に連綿と続く人々の生活があるということから、やはり3館連携の中心は、八ヶ岳総合博物館になります。

続いて、資料2を簡単にご説明します。

博物館の役割は、資料の収集保管、調査研究、普及啓発の活動です。いわゆる保存と活用の両輪です。こうした役割に沿って、それぞれ3館では、基本方針を立てて事業を展開しています。

基本方針については、ご覧いただければと思います。

尖石縄文考古館から業務の状況ですが、第2期整備計画に基づいて、史跡公園の環境整備を行っています。また、国宝土偶などを使って特別展や講演会、宮坂英弼記念の縄文文化賞、縄文市民科への講師派遣、ちの縄文遺産市民ガイドの育成講座等々ソフト事業も展開しています。ちの縄文遺産市民ガイドについては、資料4をご覧ください。

課題については、県外からの入館者が多い一方で、市内、郡内入館者が非常に少ないという印象を持っています。これから長く当館事業を実施していくためにも、市内在住の方の入館者を増やすことに注力をしていきたいと思っています。

下にイベントや事業の様子の写真等を掲載していますが、こうしたイベントを企画した意図は、新たな市民を含めて、縄文ファンをとにかく増やしていきたいということです。以前は行っていなかった未就学児の取り組み向けの事業なども実施しています。

次ページ神長官守矢史料館をお願いします。

業務の状況ですが、市へ寄贈になった文書の保存活用をしっかりと行っています。また、守矢家の敷地が、令和3年3月に市の指定史跡に指定されました。こちらの土地をお借りしているので、しっかりと管理をしていきます。

また、年3回の企画展や来館者へ丁寧にわかりやすい解説を心掛けて活動してきました。

課題については、考古館とやはり同じような課題があって、茅野市民、諏訪郡内の来館者が少ない傾向があります。さらに、開館から30年以上が経過しておりますので、今後、補修箇所が増えてくる可能性があります。

下に守矢史料館周辺を歩くという、平成25年に行ったイベントの写真を掲載しています。コロナをきっかけに思うように実施できませんでしたが、今年度に再開して、市民の皆さんに守矢家周辺を知っていただき新たな史料館ファンを取り込みたいというふうに思っています。

最後に八ヶ岳総合博物館ですが、業務の状況については、資料6のリニューアルの図面を文章化しましたので、併せてご覧いただければと思います。

課題として、博物館がより多くの市民に認知されるように学習機会の提供と情報発信をしていかなければいけないと考えています。館職員による特別展、企画展の開催と広報ちのやSNSを使った情報発信だけではなく、7つある市民研究員の皆さんの力をお借りすることはとても重要なことだと思っています。それぞれの分野の調査研究の成果や、魅力を市民にわかりやすく、私たちに代わって伝えていただきたいと思っています。

また館としても、そういった市民研究員が、市民と接するような場を設けていかなければならないというふうに考えています。併せてロコミに勝るものはないと言われるように、市民研究員の皆さんが、様々なコネクションを使って、またSNS等で、積極的にその情報発信をしていただきたいと市民研究員との話し合いの場をお願いをしたところです。

最後に、この3館は東京にある博物館ではありません。この地域の博物館であるので、最後の存在する価値を問われるとすれば、市民にどれだけ足を運んでもらえるか、愛してもらえるか、利用してもらえるか、という点だと思っています。市民ファーストで3館とそこに関わる様々な方々と連携を深めて、茅野市の歴史・文化・自然をしっかりと売っていきたいと考えています。

以上です。

○市長

説明は以上ということになりますので、今日はこの3館の今後の活用について、という点を中心に、委員の皆様方のご意見をお聞かせいただければと思います。

参考として、それぞれの施設の維持管理費についてだけだと、尖石縄文考古館が、5,220万円程度、総合博物館が2,000万円程度、守矢史料館が350万円程度となっています。実際に施設を運営するには人件費がかかりますので、人件費を含めた実際の運営費となると、縄文考古館が1億2,000万円程度、総合博物館は4,770万円程度、史料館が800万円程度となってきます。以上のことも参考にしながら、順番にご意見いただければと思います。

○矢島委員

今日は久しぶりにゆっくり3館を見学させていただきました。私は、社会教育施設は何かを生み出すというよりも、自分が生きていく中で、潤いを見出す場所ではないかと考えます。今日最後にご説明いただいた、八ヶ岳総合博物館は、初めて入ったわけではないのに、こんなところにこんなものか、と思わせてくれるわくわくがありました。

市民の皆さんにとって、例えば動物の剥製は、身近ではありますが、普段の生活で接しているかと言われればそうではない人も多いと思います。そんなものに、今日接することができて、この体験によって市民の皆さんの何かが変わるということは簡単には言えませんが、自然や鉱物などに興味を持つ人がいればいいなと思いました。

博物館には、いくつかの学校の児童・生徒から感想が寄せられていました。諏訪地域の学校も多くありましたが、果たして茅野市の学校が全校この博物館を体験しているのかと不安になりました。

今日説明していただいた3館関連図のようなとても良いプランも掲げていただいていますので、何年生になったら必ず博物館を見学する。といったようなサイクルが生まれることを期待しています。

以上です。

○伊藤委員

今日、私は初めて総合博物館、守矢史料館を見学しました。なかなか来る機会を作れませんが、本日の視察は非常に面白かったです。

説明にあった、八ヶ岳総合博物館を核として発展を図っていく案は非常に良いと思いますが、市民に足を運んでもらうことを考えた時に、文化施設自体が生活に関わってくるものではないので、なかなか地域の方は来ないのかなと思います。

ただ、視察した際に県外の方が多く来館していると感じたので、まずは観光の面から様々な団体と連携して来館者を増やし、そこに地域の方々が興味を持つような取組ができればよいと思いました。

○若御子委員

本日、参加を見学させていただいて、八ヶ岳総合博物館は以前見学した記憶はありますが、管内は全く覚えていませんでした。守矢史料館は初めて見学しました。

3館として、今後大事なところは、市民に愛してもらえる、市民から必要だと感じてもらえる施設を目指すことが、キーワードだと思います。その中で、先ほど市長から話があった通り、人件費含めた維持費がかかりますので、正直綺麗事だけでは、通る話ではないのかなと思います。

す。

私も見学して改めて感じましたが、ぜひ3館とも残したいと感じました。そうなったときに大切になってくるのは施設の維持費で、予算の削減もちろん大事ですが、収入をいかに増やすか、だと思います。

総合博物館に限った話で言えば、行政施設に民間の考えで提案するのは恐縮ですが、食べ物や土産を買える道の駅のような施設を整備して、休憩・買い物と併せて博物館を見学していただくのはどうでしょうか。

思い付きの案ではありますが、博物館や考古館はまだまだ土地が余っていると思いますので、来館者誘致のための開発を行っても良いと感じました。

来館者が増えることで地域の方も興味を持つことに加え収入が増え、安定した維持管理ができると思います。

○市長

現在、公共施設の利用料の検討を行っていますので、そちらについても今度意見をいただくことになるかと思っています。

○竹村委員

3館を見学すれば茅野市がわかる、という話を聞いたので、県外の友人を伴って事前に3館を見学してみました。

正直に申し上げますと、興味があって見学していない限り、首をかしげてしまうような少し難しい内容でした。しかし、本日は展示について都度解説していただき、とても分かりやすく、楽しかったです。市民研究員の方や市民ガイドの方と協力して、これからも興味が湧き、見学しがいのある博物館にしていただければと思います。

我が家には築150年ほどの母屋がありますが、3館を巡っていく中で、古いものを残す意義は何だろうと疑問に思いました。もしよろしければ、皆様のご意見をお聞かせください。

~~~~~部課長数名が意見発表~~~~~

○教育長

歴史を学ぶことは、生きる力そのものだと思います。

普段の生活で何気なく気付かないことでも、学び・知ることによってわくわくしたり生きる力に繋がったりすると思います。

○竹村委員

ありがとうございました。

父が米沢村史を作るときに信玄公が座った石について意見が割れ非常に、苦労していましたが、結局、昨日おばあさんが座った石だった、ということもありました。その時感じたことは、歴史を紡ぐことは、今生きている人たちに伝えること、活かされることだと感じました。

しかし、やはり問題になってくるのは、経済的な部分だと思います。実際に歴史を残すために、お米を買うお金を我慢することはないと思います。そうなった時に、後世の人達に何が残せるのかといたら、人の生き様だと思います。

例えば、それぞれの会社の研修として、博物館に行き、先人を学び、体験、活動をすることで、人間性、モラルを学ぶことができるようになれば良いと思います。

小倉美恵子さんの諏訪式をご存じでしょうか。

この方は、諏訪の方ではありませんが、諏訪は不思議で仕事も人もすばらしいと褒めてくだ

さっています。しかし、諏訪の人は知らない人の方が多いと思います。

そこで、人材教育に使えるような私達の今に繋がる偉人の生き様を揃えておいて、企業の新人研修で活用していただき、収入に繋がるという流れができればよいと思います。

そういった意味では、総合博物館には、坂本養川さんのコーナーがありますが、田んぼを持っていない人からすれば、よくわからないと思います。

それを踏まえて、取り入れていただきたいのは、水育です。

近くでは、サントリーが大町市に工場を建設して、水の循環やその過程で必要不可欠な山や森を学ぶ森と水の学校という事業を行っています。

それを参考に茅野市は、水の教育に力を入れていただき、その先に、坂本養川さんがいます。生年月日などの単純な歴史ではなく、どんな経緯で、どんな状況で、どんな苦労があつて何を成し遂げたのかを伝えていっていただければと思います。

そしてそれを学んだ人々が、水についての意識が変わり行動に移していってくれば最高だと思います。

最後に、これらを発信、アピールするのは、展示や配布だけでなく、ストーリーとしてSNS等で発信していくことで、若者の心にも訴えかけられるのではないのでしょうか。そしてそこから、沢山の人が生きる力に繋がっていければと思います。

○市長

ありがとうございました。

最後に教育長から一言お願いします。

○教育長

今日、3館を巡った個人的感想になりますが、考古館に行くときには、下の信号を過ぎると胸がワクワクします。守矢史料館に行き、松の木をくぐると、敬虔な気持ちになって落ち着いてきます。総合博物館に行くと、ワクワクドキドキします。私は、博物館が、人の生きるもとにあるのではないかと思います。単純に歴史を知る、新たなことを知ることが、生きる喜びに繋がってきて、子どもたちもそうなるって欲しいなと思います。

竹村委員がおっしゃった水の水の教育も併せた新たな視点で、社会教育も含めて見直していくと同時に、時代の変化の中でどのように生き残っていくのかを考えていくべきだと思います。

総合博物館は、諏訪地方で唯一の自然博物館ですが、歴史的経過で見たときにやはり子どもたちを対象にしてきた歴史があります。大人の視点に立ったときに、展示のあり方も含めて、さらに工夫ができるのかなと思ったり、一方で、史料館に行くと、小学生では理解できないような学術的な内容となっていますので対象が誰なのかを明確にしていくべきだと思います。

○市長

皆様からご意見をいただきました。

まず、印象に残ったのは、初めて神長官や博物館に行ったという方がいらっしたことです。市内にはそのような方は沢山いるのかなと感じました。

そんな中で、やはり小学校のうち1回はこの3館に行くような体制をとるべきではないか、市民が集う場所にしていくべきではないか、というご意見をいただきました。

そして、施設の展示として、説明があると面白いけど、見ただけだと分からなという意見もいただき、やはり改善の余地はあるなと感じました。

また、3館で人を育てるという取組をさらに充実させていくべき、という意見もいただきました。

最後に、3館の今後のありかたについては、お金の問題抜きでは語れない部分もあると思いますが、市民の1人一人が3館を今度に残していきたいという気持ちが私はすごく大事で、その力が今後試されていくかと思います。

本日は大変お疲れ様でした。いただいた意見は、より良い子どもたちの教育環境のために活用させていただきます。

○学校教育課長

ありがとうございました。

以上で総合教育会議を終わります。